

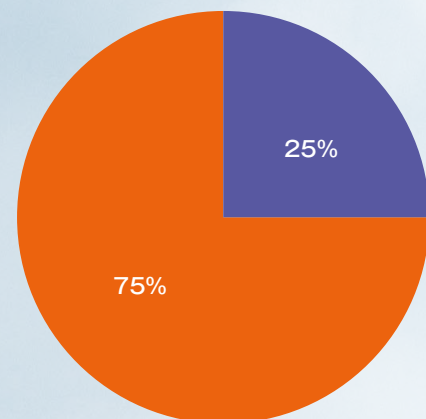
被爆81周年 原水爆禁止世界大会・福島大会



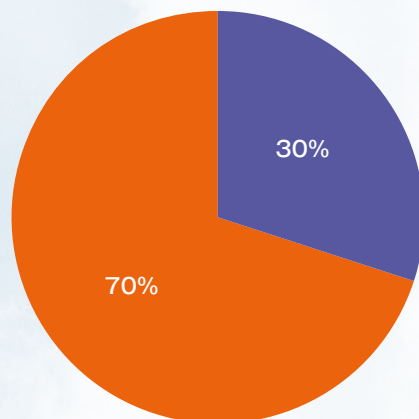
7月25日に福島市のパルセいいざかにて、被爆81周年原水爆禁止世界大会・福島大会に参加して来ました。開会后、被爆者で亡くなった方々に1分間の黙祷を捧げました。主催者挨拶は実行委員会共同実行委員長の染 裕之さんが務めました。私自身この原水禁には2度目の参加なのですが、他の方々の挨拶なども聞き、この大会を開催する意味、現状、これからの課題についてなどを何度も考えていくものだと思います。次に、高校生平和大使の6人の方々が壇上に立ち、高校生1万人署名活動についての報告があり、若い世代が平和への思いを広めようと積極的に活動していることを知りました。原爆は一瞬で多くの命を奪い、生き残った方々も長年にわたり苦しみ続けました。その悲惨な出来事を二度と繰り返さないためには、戦争や核兵器の恐ろしさを私たち一人ひとりが正しく理解し、次の世代へ伝えていくことが大切だと感じました。また、平和は当たり前にあるものではなく、多くの人々の努力によって守られていることを改めて実感しました。今回の大会への参加を通して、平和について考える貴重な機会となり、自分にできることを少しずつ行動に移していきたいと思いました。分科会1では、「福島原発事故は終わっていない」というテーマで、事故から15年が経過した現在も多くの課題が残っていることについて話を聞きました。事故から時間が経つと、当時の出来事を忘れがちになりますが、今も廃炉作業や被災地の復興が続いていることを改めて知りました。また、原発についてはさまざまな考え方があることも分かり、一つの意見だけで判断するのではなく、多くの情報を知った上で自分なりに考えることが大切だと感じました。今回の分科会を通して今自分が思っているよりもより強く福島のことを考えて行動していきたいと思いました。

小名浜支部幹事 赤堀 巧真

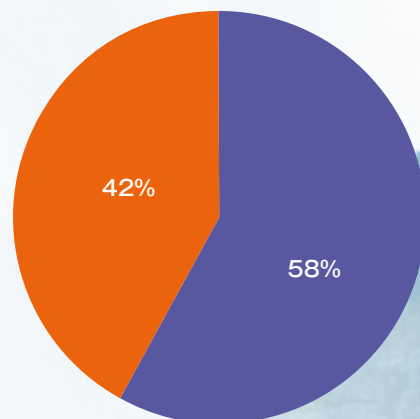
■ 核兵器必要 ■ 必要ない



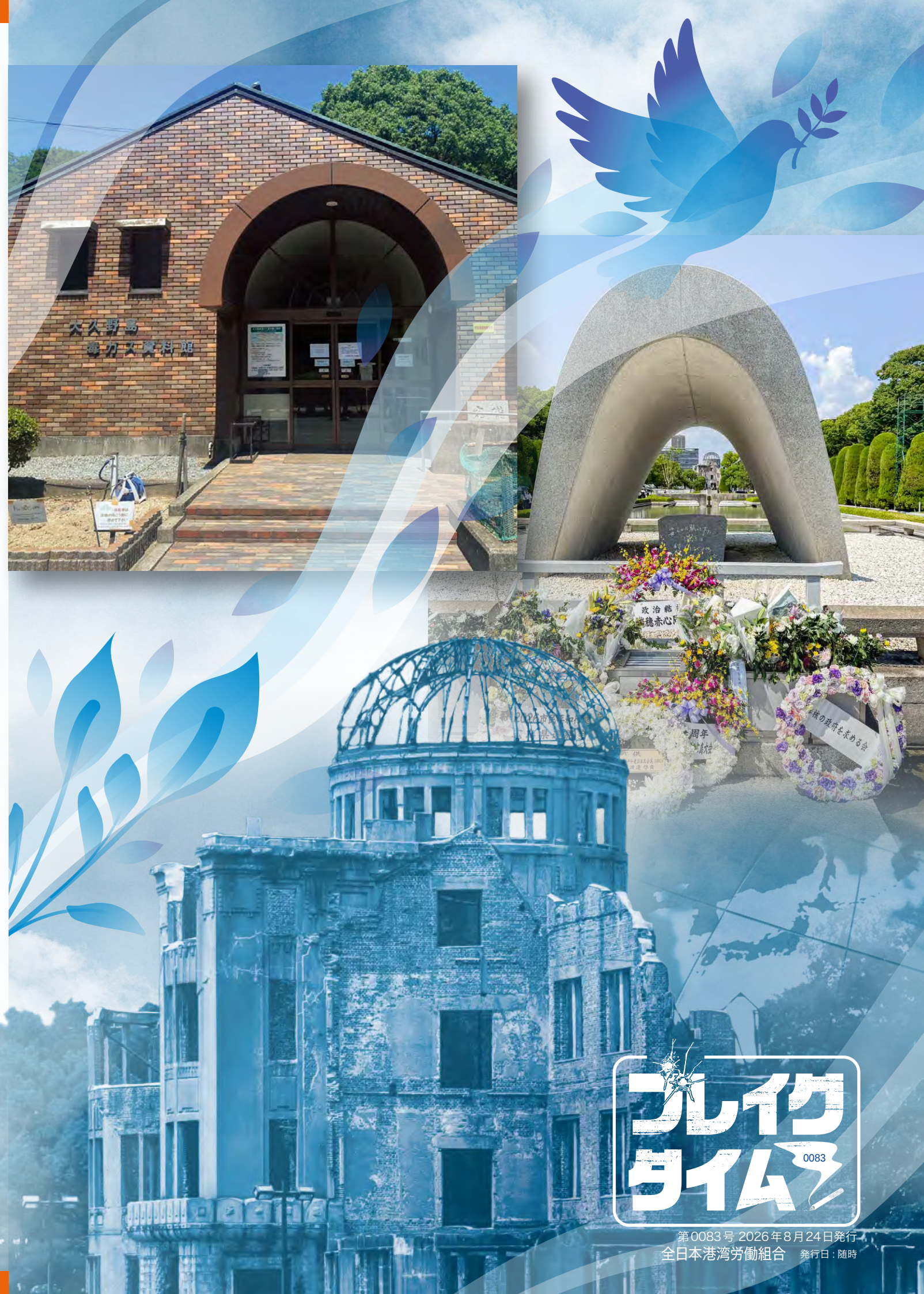
核兵器で平和は
守れると思いますか？



日本が核兵器禁止条約に
参加していない事を知っていますか？



核兵器禁止条約を
知っていますか？



レイク
タイム 0083

第0083号 2026年8月24日発行
全日本港湾労働組合 発行日：随時

被爆81周年 原水爆禁止世界大会・広島大会

8月4日～6日、被爆81周年原水爆禁止世界大会・広島大会に参加した。初日の折鶴平和行進では、全港湾の旗のもとに横浜、境港、大阪から集まった仲間と合流し、地域を越えて、平和を願う仲間とともに歩くことができました。全港湾で働く仲間が、平和を守るという共通の思いで一つになって行進する姿に、全港湾の団結力を改めて感じました。平和行進終了後、広島県立総合体育館大アリーナにて開会総会が開催され、被爆者からの訴えや高校生平和大使の活動報告、海外ゲストからの発言などを通じ、核兵器のない世界をめざす取り組みが国内外で続けられていることを学び、核兵器をめぐる国際情勢が厳しさを増すなか、被爆地、広島から核兵器廃絶の思いを次世代へ繋ぐ大切さを改めて痛感した。2日目は「ヒロシマと戦争」バスツアーに参加し、忠海地域交流センターで大久野島での毒ガス製造について事前学習を行い、船で大久野島へ渡り、発電所跡、北部砲台跡、通信隊跡、長浦などを歩いて見学した。毒ガス資料館は停電のため閉館しており見学できなかったが、島に残っている施設を実際に目にすることで、大久野島がかつて毒ガス兵器の製造拠点であった事実を初めて知りました。印象的だったのは、現在は観光地として多くの人が訪れる穏やかな島に、戦争のためにつくられた施設が、今も残されていることでした。戦争は遠い過去の出来事ではなく、地域の歴史やそこに暮らす人々の記憶として今も続いていて、実際にその場所へ行き施設を見て、歴史を知ることで、資料を読むことだけでは得られない重みを感じました。最終日は、「被爆81周年原水爆禁止世界大会・国際シンポジウム」に参加し海外からの報告を聞き、核兵器廃絶の取り組みが国境を越えて広がっていることを実感しました。広島大会に参加し、被爆者からの話を聞くたびに二度と戦争をしてはならないという思いを強くしました。81年前の8月6日の広島は悲慘な状況だったことが想像できます。その時の光景だけでなく、どのような匂いがし、どのような状況だったのか、想像することしかできません。現地広島に来て、想像力を高めることの大切さを感じました。それが二度と核兵器の使用を許さない原動力になると思いました。平和は当たり前存在するものではなく、一人ひとりが歴史を知り、想像力を高めて、声を上げ、次世代へ伝えていくことで守られるものだと感じました。労働組合の活動においても、賃上げだけでなく、働く者が安心して暮らし、家族や仲間と平和に生活できる社会をつくるのが重要です。現地広島で学んだこと、感じたことを職場や組合活動の中でも伝え続け、「核兵器のない平和な世界」をめざす取り組みにつなげていきます。

大阪支部 田村 吉雄



被爆81周年 原水爆禁止世界大会・長崎大会

8月6日～10日にかけて、原水禁長崎大会が長崎市内で開催された。8月7日には、第29代高校生平和大使と高校生1万人署名活動のメンバーが登壇し、ジュネーブ派遣を予定するメンバーをはじめ、それぞれが思いを述べられた。最後に「大会アピール」を全体の拍手で確認し、開会集会を終了した。二日目には、各分科会が各場所で開催され、全港湾は、「平和外交に実現によっていかに戦争を回避することが重要か」を主題とした、「平和と核軍縮Ⅱー日本国内の動き」へ参加した。最終日の8月9日には、「被爆81周年原水爆禁止世界大会・長崎大会」閉会総会が長崎県立総合体育館アリーナで開催され、約950人の参加があった。川野浩一・共同実行委員長の閉会の挨拶では、自らの被爆体験、長崎で行われた最初の原水禁大会の熱気などを振り返りつつ、核兵器にいい核兵器、悪い核兵器があるのではなく、人類の生存のためにすべての核兵器を廃絶しなくてはならないとし、原水禁はその実現に向けがんばり続けると述べられた。続いて谷雅志・事務局長が3日間にわたる長崎大会全体についての総括が報告され、大会アピール（案）が採択された。閉会式終了後には、会場から爆心地公園に向け、実行委員会役員、海外ゲストを先頭に平和行進を行った。11時02分を爆心地公園で迎えた参加者は、鐘の鳴り響くなか、長崎・広島原爆犠牲者、そしてすべての核被害者の皆さんに黙とうを捧げた。

松永 英樹